

自治体の課題、現状

- ・近年、深刻な少子化の進行により、現行の、学校単位で活動する部活動の継続は困難になってきており、今後、子供たちがスポーツや文化活動を楽しむ機会が大きく減少してしまう恐れがある。
- ・休日の地域クラブの取組の現状は、軟式野球、バレーボール、サッカーの3種目を行政主導型として実施した。
- ・地域において活動の機会を確保し、将来にわたり子供たちが地域でスポーツに継続して親しめる環境を構築していく必要がある。地域移行を進める上での課題は、指導者の人材確保と学校部活動との連携である。

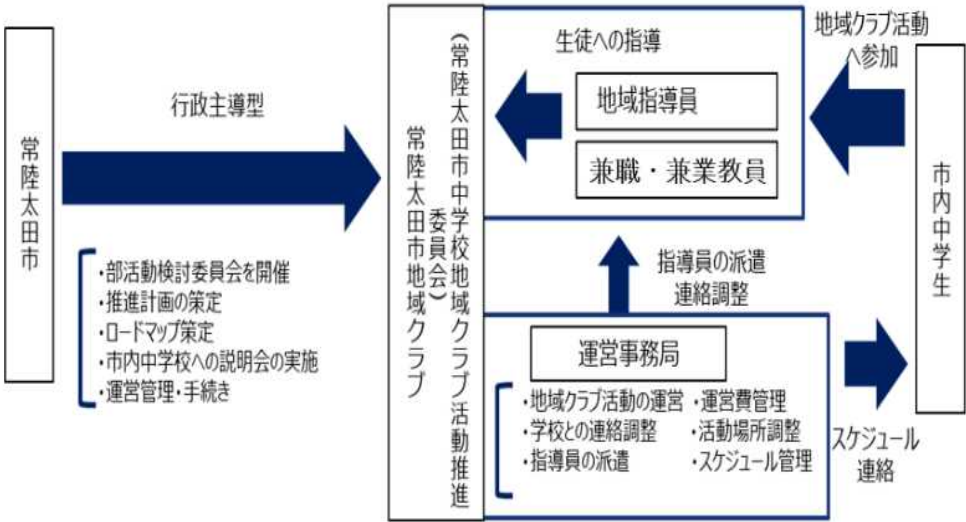
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	7 校	全生徒数	7 9 人
域内の部活動数	4 7 部	実施した地域クラブ数	野球クラブ バレーボールクラブ サッカークラブ
全体の指導者数	2 4 人	全体の運営スタッフ数	2 人
主な運営団体	常陸太田市教育委員会 (常陸太田市地域クラブ推進委員会)		
主な種目	軟式野球、バレーボール、サッカー		
平均的な活動回数	2 回/月	年間平均参加生徒実数	3 年：8 人/3クラブ 2 年：12 人/3クラブ 1 年：8 人/3クラブ
参加会費	800円/年（保険料）	主な活動場所	市内中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・部活動の地域移行として、**月2回程度、地域クラブ活動を実施**することにより、教員が関わる部活動の実施回数を減少させることができた。
- ・地域クラブ活動として、生徒を**市内一カ所に集め開催**することにより、練習の幅が広がったことに加え、他校生徒との交流が増え、生徒たちにとってスポーツを楽しむ機会となった。
- ・**運営事務局が練習場に立ち会い、運営を行う**ことにより、指導者の負担が軽減され、生徒への技術指導に集中して取り組むことができた。

運営体制図



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 常陸太田市

自治体名： 茨城県常陸太田市
担当課名： 常陸太田市教育委員会 生涯学習課
電話番号： 0294-72-8888

本報告書は、スポーツ庁の「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一貫として、茨城県が実施した「令和6年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果をとりとめたものです。

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	372 km ²
人口	44602人
公立中学校数	7校
公立中学校生徒数	799人
部活動数	47部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

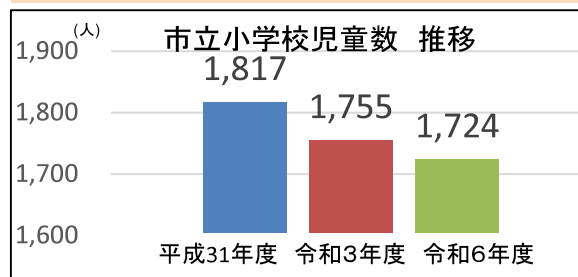
現在、当市の運動部活動は、軟式野球部、サッカー部、男子ソフトテニス部、女子ソフトテニス部、男子バスケットボール部、女子バスケットボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、卓球部、剣道部、弓道部、多目的運動部、陸上部の13種目が活動している。

少子化に伴い、団体種目においては、合同チームによる活動や拠点校による部活動を行っている。

昨今の児童・生徒数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。部活動改革の第一歩として、休日の部活動の段階的な地域展開をしていく必要がある。

【課題】

現在の常陸太田市の児童・生徒数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

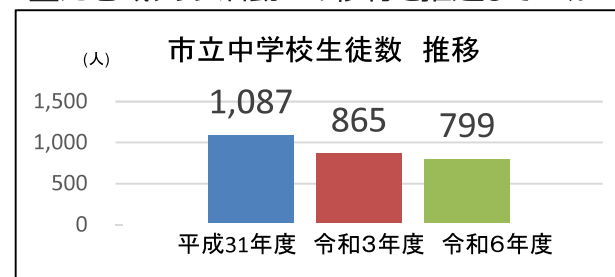


※常陸太田市教育委員会

このような諸課題の解決を図るため、令和5年度以降、3年間程度を改革推進期間とし、地域の持続可能な受け入れ環境を一体的に整備するとともに、休日等の部活動の地域移行を積極的に推進することで、生徒たちの多様な体験機会を確保できるよう推進する。

令和5年4月より「地域野球クラブ」、令和6年3月より「地域バレーボールクラブ」、同年11月より「地域サッカークラブ」が活動を開始した。まず、地域クラブ活動への参加については、「任意参加」の方針を取っており、生徒主体のクラブ活動運営に努める。

また、将来的にも児童・生徒数の減少が見込まれることから、活動が困難になると推測される団体競技を優先しつつ、受け皿となる環境を整え地域クラブ活動への移行を推進していく。

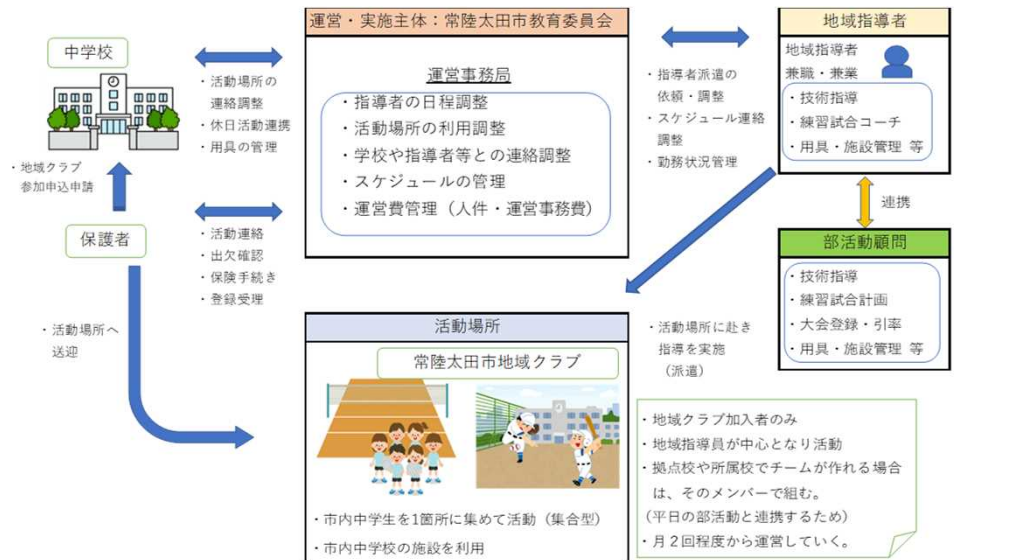


※常陸太田市教育委員会

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- 常陸太田市地域クラブ活動推進委員会 事務局（生涯学習課）
- 常陸太田市における地域クラブ活動の運営全般に関すること

◎教育委員会内の役割分担

- 下記のスポーツ団体との連絡調整（窓口）
- 常陸太田市スポーツ少年団
- 常陸太田市スポーツ協会

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域クラブ活動加入案内配付 加入手続き （軟式野球、バレーボール）
令和6年5月	新1年生地域クラブ加入 （軟式野球、バレーボール）
令和6年7月	各団体ヒヤリング （サッカー、バスケットボール）
令和6年9月	第1回検討委員会
令和6年10月	生徒・保護者への説明会実施 （サッカー、バスケットボール）
令和6年11月	地域サッカークラブ活動開始
令和7年1月	地域クラブ活動 新入生説明会 地域クラブ活動実態調査
令和7年2月	第2回検討委員会
令和7年3月	事業完了報告書・成果報告書等 の作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導員数	24 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導員数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
常陸太田市地域野球クラブ	行政主導型	軟式野球	月2回程度	8：00～11：00	1年：9名 2年：8名 3年：14名	4月～3月	市内中学校（校庭）	5 人	2 人 （内、兼務 2 人）	年会費 800 円（保険料）	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域バレーボールクラブ	行政主導型	バレーボール	月2回程度	8：00～11：00	1年：10名 2年：17名 3年：8名	4月～3月	市内中学校（体育館）	9 人	2 人 （内、兼務 2 人）	年会費 800 円（保険料）	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域サッカークラブ	行政主導型	サッカー（新）	月2回程度	8：00～11：00	1年：3名 2年：10名	11月～3月	市内中学校（校庭）	6 人	2 人 （内、兼務 2 人）	年会費 800 円（保険料）	中体連：部活動 その他：部活動
常陸太田市地域総合クラブ	行政主導型	体幹トレーニング等	月1回程度	8：00～9：00	各クラブ所属生徒対象	4月～3月	市内中学校（校庭・体育館）	4 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無 （他のクラブと兼ねる）	無

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和6年10月19日 地域サッカークラブ体験説明会、地域バスケットボールクラブ体験説明会 実施
- 総合クラブは、他の各クラブ活動と連携し、ケアや怪我をしにくい体幹トレーニングを行っている。

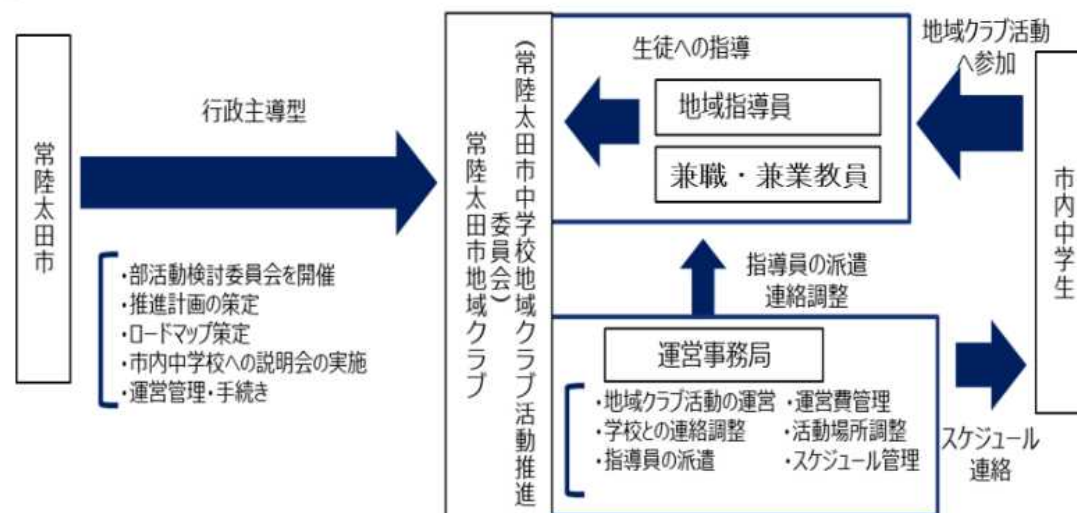
2.実証内容と成果

主な取組例

●常陸太田市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、バレーボール、サッカー
運営団体名	常陸太田市地域クラブ活動推進委員会
期間と日数	野 球 : 4月13日 ~ 3月15日 月2回程度 バレーボール : 4月6日 ~ 3月16日 月2回程度 サッカー : 11月24日 ~ 3月16日 月2回程度
指導員の主な属性	市人材バンク登録者
活動場所	市内中学校（校庭・体育館）
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	野 球 : 0円 バレーボール : 0円 サッカー : 0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導員1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



※常陸太田市教育委員会

●指導員や運営スタッフなどの役割分担等

●運営事務局

役割：指導員派遣、運営管理・事務、学校との連絡調整、活動場所の調整、スケジュール管理を行う

●地域クラブ指導員 24名（内：兼職・兼業教員4名）

役割：生徒への技能・技術指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導員の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○行政主導での地域クラブ設立
及び運営。

○コーディネーターを1名配置し、
関係団体・市区町村・学校・
保護者との連絡

調整・指導助言等を行う。

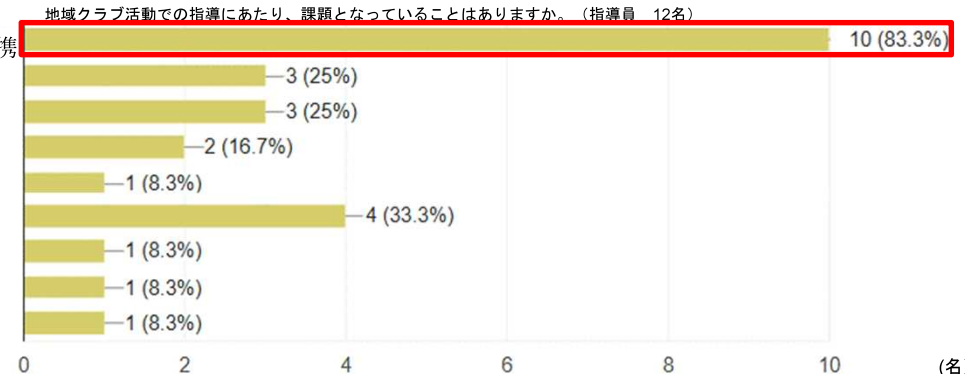
○運営体制の整備や人材の確
保など、持続可能な運営ができ
る組織体制の整備を行う。

○参加者の管理、保険料徴収、
参加者・指導員への連絡、会
場確保・調整、学校連携。

取組の成果

コーディネーターを運営団体に配置したことにより、事務局が連絡調整の起点となり、家庭・指導員・学校への連絡調整を円滑に行うことができた。指導員の派遣や練習場の確保、練習計画を事務局が行うことにより、地域クラブ指導委員への負担を軽減することができた。今年度開始した地域サッカークラブにおいては、市内クラブチーム団体のコーチに技術指導を依頼することにより、運営体制の幅が広がった。また、事務局が、練習場に立ち会うことにより、地域指導員との打合せを日々設けることができた。地域クラブ指導員を対象としたアンケートを行い12名の回答があった。回答者の83%が平日の部活動との指導方針の連携が必要と感じている結果となった。

- (1) 平日の学校部活動との指導方針の連携
- (2) 地域クラブの大会参加
- (3) 事故発生時の対応
- (4) 生徒の対応
- (5) 保護者への対応
- (6) 活動場所の整備
- (7) 自チームとの調整
- (8) 活動日時、回数の確保
- (9) 技術の差



※常陸太田市教育委員会

コーディネーターの具体的な動きの実績

【コーディネーター】

- ・各クラブの練習を巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・指導員との連絡調整及び助言
- ・学校との連絡調整

今後の課題と対応方針

- 調査の結果、兼職兼業者を含め指導員の75%が学校と地域との指導連携が難しいと考えている。平日の部活動と休日の地域クラブ活動との連携の強化をさらに図っていく。地域指導委員と学校部活動との連携がとれるように場の設定の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導員の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導員の質の保障・量の確保①

取組事項

○事務局が現地に立ち合い、指導者と連携をとりながら活動を行う。

○指導員を対象とした地域クラブの安全確保や連携体制の確認、また、コンプライアンス等の研修を行う。

人材バンクの人数

22名

人材バンクの年齢構成

20代	4名
30代	4名
40代	5名
50代	5名
60代以上	4名

登録者属性

職業

・会社員 22名

人材バンク登録理由

市スポーツ少年団、市スポーツ協会を通じて紹介

・男 19名、女 3名

種目

・軟式野球
・バレーボール
・サッカー
・バスケットボール
・ストレッチ・トレーニング指導

資格有無

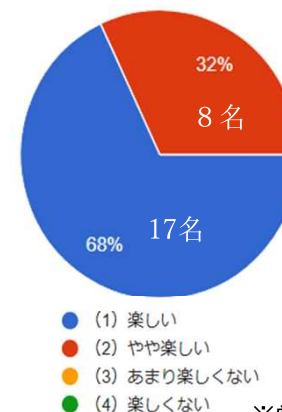
・サッカー
日本サッカー協会公認
A級U12 1名
B級コーチ 1名
C級 3名
・バスケットボール
JBA Cコーチ 1名
C指導員 1名

取組の成果

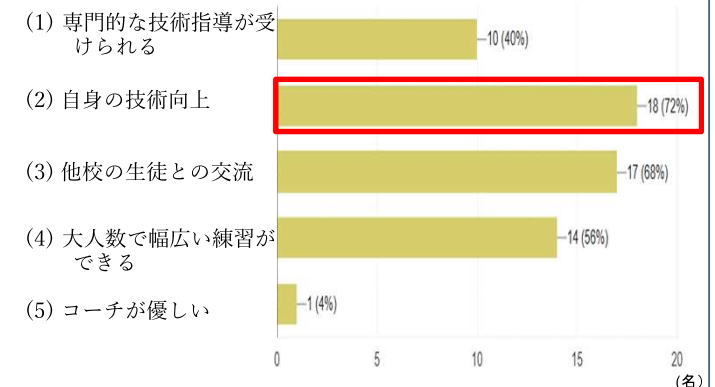
参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。回答者の100%が「楽しい」「やや楽しい」と肯定的な意見が見られた。また、その理由としては、自身の技術向上が72%、専門的な指導が受けられるが40%となった。スポーツに通じている地域の方々により、専門性のある指導員による質の高い技術指導が生徒に提供できているとわかる。

また、本市地域クラブ活動が、勝利至上主義にならない中学校部活動の運営方針を引き継ぎ、生徒達にとって有意義で楽しい活動となっていることがわかる。

1. 休日の地域クラブ活動は楽しいですか。(生徒 25名)



2. 「楽しい」、「やや楽しい」と答えた理由を教えてください。(複数回答可)(生徒 25名)



※常陸太田市教育委員会

※常陸太田市教育委員会

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導員の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導員の質の保障・量の確保② / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

指導員研修の内容

- ・各地域クラブ活動ごとの研修（目的・意図・運営方針の確認）
- ・指導方針・コンプライアンス研修・指導する際の留意点
- ・事故への対応、リスクマネジメント対策

取組の成果（イ）

- ・各クラブ活動時に、研修・打合せを行い地域クラブについて共通理解をすることができた。また、事務局が、地域クラブ活動に同行することにより、その都度、取組み方について検討することができた。

指導員の声

- ・地域クラブ活動の目的や意図について確認ができた。
- ・学校の先生でない立場での指導員としてスポーツを通じて様々な事を伝えられる役割だと思います。私達が今まで学び感じた経験や体験を第三者の立場で共有していきたいと思う。

今後の課題と対応方針

- ・今年度は、地域クラブ活動についての説明のための研修となった。指導員の資質向上のために、今後、どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。事務局が主催する全体の研修会を図る。

取組事項（ウ）

- 市内中学校、市スポーツ協会、競技団体、市PTA連合会、市スポーツ少年団、市文化団体連合会等と連携し、指導員の確保及び新たな地域移行する部活動の検討

取組の成果（ウ）

- 市内中学校を訪問し、学校の協力を求めることで、市内中学校の全ての生徒に募集チラシの配布を行うだけでなく、PTA総会や新入生説明会で活動の周知をする機会を得た。
- 令和6年度、地域サッカークラブを開設する際は、市スポーツ協会から、市内のクラブチーム指導員を推薦していただき、指導員の確保を行った。
- 各運営主体が活動するときは、指導員が競技種目の指導のみに集中できるように、会場の施設、開場や参加者の出欠確認などを行う運営員を配置し、その運営員を事務局が担うことで、地域一体となって運動部活動の地域移行に向けた環境づくりを進めた。

- ・今後、新たに地域移行を進めるためには、学校・家庭・地域の理解を得ることが重要となる。連携して取り組むためにも、様々な方法で説明を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導員の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○団体競技において、生徒数の減少により、中学校単位では部活動を行うことが困難なため、市内一カ所に生徒を集め活動した。
 ○軟式野球部、バレーボール部に拠点校を1校ずつ配置したことを受け、地域クラブ活動でも、そこを拠点とする取組を実施した。
 ○中学校総合体育大会後も、3年生ができるように実施した。

自治体の役割

- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・関係機関との連絡、調整
- ・理解促進に向けての広報
- ・諸謝金等の事務処理

移動手段

- ・保護者による送迎
- ・学区内は徒歩又は自転車

市内拠点校（部活動）

- ・軟式野球部 1校
- ・男子バレーボール部 1校
- ・女子バレーボール部 1校
- ・弓道部 1校

地域クラブ登録者数

- 他中学校の拠点校へ入部後、地域クラブへ登録者数
- ・地域野球クラブ 1名
 - ・地域バレーボールクラブ 4名

取組の成果

○地域クラブ活動に参加した生徒は、79名であったが、そのうち5名の生徒が拠点校登録の参加であり、地域クラブ活動への参加を希望し活動した。
 ○拠点校登録者を受け入れ活動する取組を2種目の地域クラブ活動で実施することができた。
 ○全国中学校体育大会後も、野球クラブで3名、バレーボールクラブで4名の3年生が活動を行った。

今後の課題と対応方針

○団体種目の部活動から、地域クラブへ移行するため、市の実態や生徒実態を調査しながら地域展開を検討する。
 ○平日の部活動との連携が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 行政主導型による地域クラブ活動を実施し、個人技能向上を基本とする活動を行なった。
- 現在、運動部に所属していない生徒も含めた、スポーツをやりたい子どもの新たな活動場所となるように機会を設定した。
- 「地域クラブに関する調査」を実施し、生徒・保護者・指導員のニーズの把握に努めた。
- 整体治療院と連携し、各地域クラブ活動の際に、体のケアの仕方(ストレッチ)、ケガのしにくい体づくりやトレーニングを実施した。

活動の詳細

参加人数	79人	指導員数	24人
属性	常陸太田市地域クラブ（軟式野球、バレーボール、サッカー）		
具体的な内容	活動日時：月2回程度 土・日曜日・祝日 ※土・日曜日・祝日のどちらか1日 活動時間：＜夏季期間以外＞8：00～11：00 ＜夏季期間＞7：00～10：00 活動場所：市内中学校 校庭、体育館		
令和6年度実施回数	● 地域野球クラブ 18回 ● 地域バレーボールクラブ 23回 ● 地域サッカークラブ 7回 ● 地域総合クラブ 6回		
生徒の声	● 他校の生徒と交流ができて楽しい。 ● コーチが優しく指導してくれる。 ● 地域の方が、技術指導をしてくれて分かりやすい。自身の技術が向上している。 ● 地域クラブでは、試合形式のゲームができて楽しい。		
指導員の声	● 地域に根差したクラブチーム運営を様々な形で実現する為、尽力したい。 ● 学校の先生でない立場での指導員としてスポーツを通じて様々な事を伝えたい。 ● 持っている技術を伝え続けていきたい。 ● 自分が子供の頃から親しんだスポーツの魅力を伝えたい。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。回答者の56%が「大人数で幅広い練習ができる」、68%が「他校との交流」とあげている。市内の中学生を一カ所に集めることで、大人数での活動ができるようになり、より幅広い練習ができることは、生徒にとって、よりスポーツを親しむためのよい環境となっている。

指導員を複数派遣することで、個別に応じた指導も可能となり、生徒たちの技術向上へつながっている。

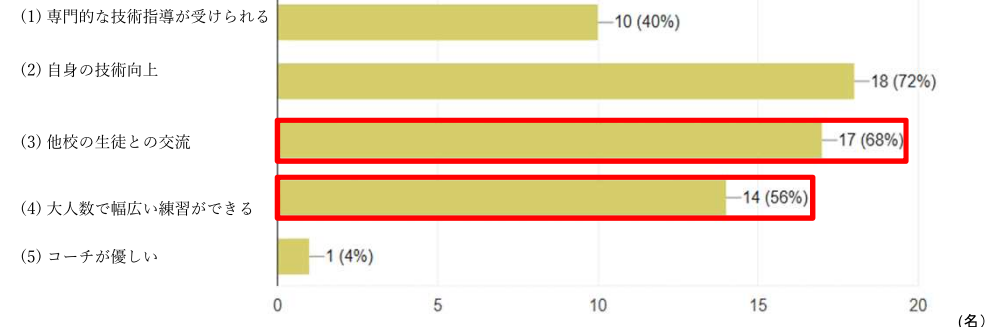
今後の課題と対応方針

参加した中学生を対象としたアンケートの結果、25名の回答があった。地域クラブに期待することとして回答の56%が「体力・運動能力向上」、「技術・戦術的な指導」を求めている。また、40%が「楽しいんで活動に参加できる」と答えている。

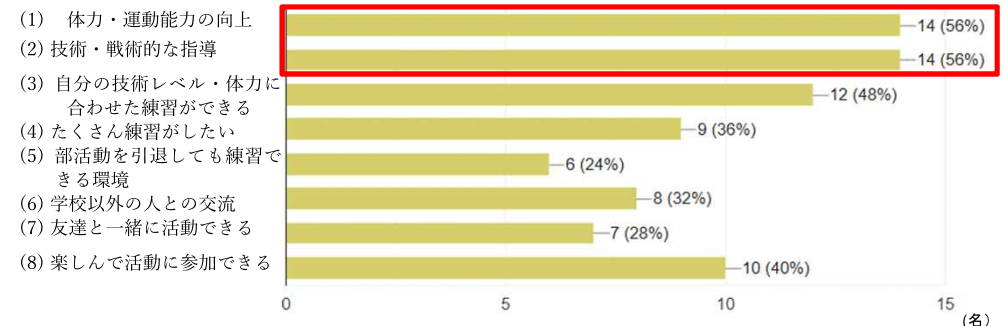
保護者を対象としたアンケートの結果、39名の回答があった。回答者の71.1%が「子どもの技術・体力向上」、55.3%が「専門的な技術指導が受けられる」と答えている。

この結果を受け、今後の地域クラブ活動では、勝利至上主義ではなく、スポーツに親しむ場として運営し、生徒たちの資質・能力を高める質の高い技術指導を提供し、学びと育ちの両面から生徒たちの健全育成を図っていく。

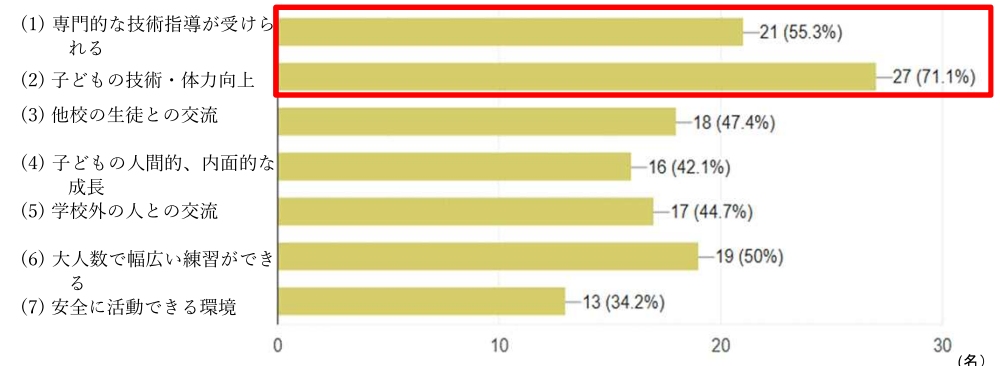
「楽しい」、「やや楽しい」と答えた理由を教えてください。（複数回答可）（生徒 25名）



休日のクラブ活動にどのようなことを期待しますか。（生徒 25名）



今後、常陸太田市で実施する地域クラブ活動に期待することはありますか。（保護者 39名）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導員の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担に対する取組 / キ：学校施設の活用等

取組事項

- 令和6年度は、部活動地域移行期ということもあり受益者負担額は、保険料の800円のみで実施。
- 費用負担の在り方に対する取り組みとして、地域スポーツクラブ活動に対する収支を踏まえた会費の適切な設定・徴収方法・保護者負担経費について検討を行った。

地域クラブに係る経費

■ランニングコストの分析

- ・指導員謝金（776千円）・事務局人件費（1,496千円）
- ・消耗品費（795千円）・雑役務費（1千円）・保険料（115千円）

取組の成果

移行期間中である令和6年度までは、受益者負担は、保険料800円のみとした。保険料のみということで、部活動の延長上として参加する生徒が多くみられた。地域クラブの持続可能な仕組みづくりのために、今年度の費用を参考に、受益者負担経費についてさらに検討していく。

今後の課題と対応方針

- 地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定について検証を行う。
- 参加者に負担を求める場合について、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた検証を令和7年度に行う。

取組事項

- 地域クラブは現在3種目が活動しており、市内中学校を練習拠点し、活動をしている。
- 練習拠点となる中学校へは、練習場所となる校庭や体育館の連絡・調整を行った。

取組の成果

市内中学校の施設・設備を活用することができ、効率的に練習を行うことができた。

令和5年度 2校設置 ⇒ 令和6年度 5校設置

- 練習拠点となる市内中学校にキーボックスを取付け、休日の鍵の受け渡しができるようにした。これにより、施設の鍵の受け渡しがスムーズになった。
- ・ボール等を地域クラブ活動でそろえることにより、生徒に十分な活動の場を設定することができた。
- ・地域クラブ担当者と部活動顧問で連絡を取り合い、練習場となる校庭や体育館の調整を行った。

今後の課題と対応方針

- 活動場所について、学校部活動や種目により大会との調整が必要であるため、計画を立てる必要がある。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

地域移行の取り組みとして、各中学校から希望を募り、令和5年4月より、地域野球クラブを開設、令和6年3月より、地域バレーボールクラブ、同年11月より、地域サッカークラブを開設した。3つのクラブに79名の生徒が登録している。指導員は、少年団などで指導経験のある地域指導者20名と兼職・兼業4名、計24名である。クラブ活動は、月2回程度休日を基本に指導員を各練習会場へ派遣し、活動を行った。

生徒へのスポーツを親しむ場の提供ができ、指導員より、生徒の技術向上が図れた。また、市内の生徒を一カ所に集めて活動することによって大人数によるゲームを踏まえた活動も行うことができた。地域クラブ活動としては、参加者の満足度は高く、生徒と指導員との関係も良好である。しかし、チーム練習の面では、平日の部活動との連携が必要となり、課題がみられた。来年度、指導員と学校部活動との連携がとれるように場の設定を行っていく。

●成果の評価

- 地域移行の取り組みは、生徒数の減少により、チーム編成が困難となる、野球、バレーボール、サッカーを優先して取り組んだことにより、団体種目の活動をする場を提供することができた。
- 指導員により、専門的な技術指導を行ってもらうことにより、生徒自身も技術の向上を感じている。
- 他校との関わりが増え、生徒にとって交流を深めるよい機会となっている。
- 市内中学校の施設を活動場所として設けることにより、部活動の設備を活用することができ、効率的に練習を行うことができた。また、地域クラブ活動の充実のため用具を補充することができた。
- 部活動の地域移行として、地域クラブ活動の際は、部活動が休みとなるので、教員が関わる部活動実施回数を減少させることができた。

●今後に向けて

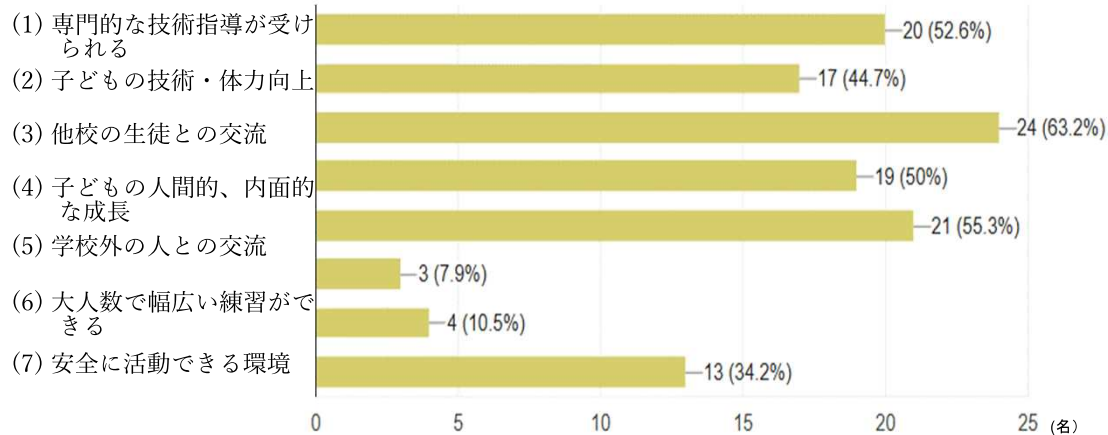
市内の生徒の実態について調査を行い、今後の地域クラブへ移行する競技を検討していく。また、令和7年度より、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、会費負担の必要性について説明していくとともに、地域クラブ活動について理解を深めてもらう機会を設ける。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・広報物の抜粋

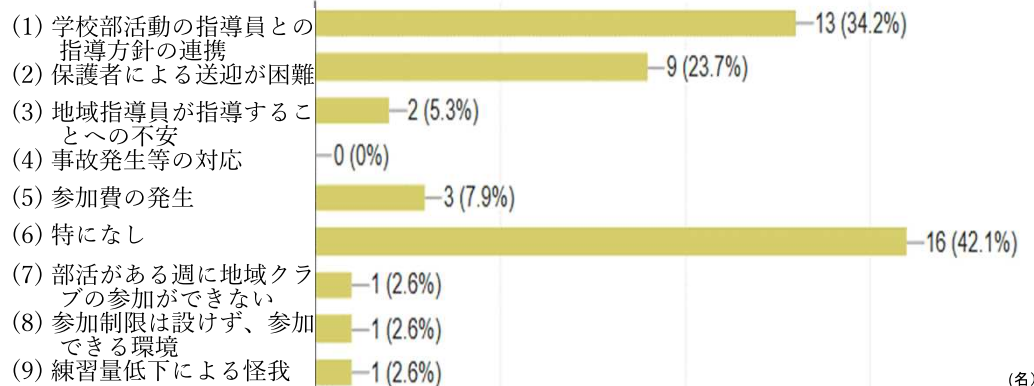
●アンケート結果 保護者（38名）

Q.お子さんに休日の地域クラブ活動へ参加させる上で、重視すること何ですか。



※常陸太田市教育委員会

Q地域クラブ活動に参加するにあたって課題と感じていることはありますか。



※常陸太田市教育委員会

【生徒への参加啓発チラシ】



※常陸太田市教育委員会

地域クラブに所属する生徒の保護者は専門的な指導のもと、子供の技術向上を期待している。また、他校の生徒との交流も63.2%と高いことから、複数校から集め地域クラブを実施していることに肯定的である。課題としては、34.2%と平日の部活動との連携があげられる。また、送迎について23.7%が困難としていることから来年度の活動時間等については検討していく。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【地域野球クラブ】



【地域バレーボールクラブ】



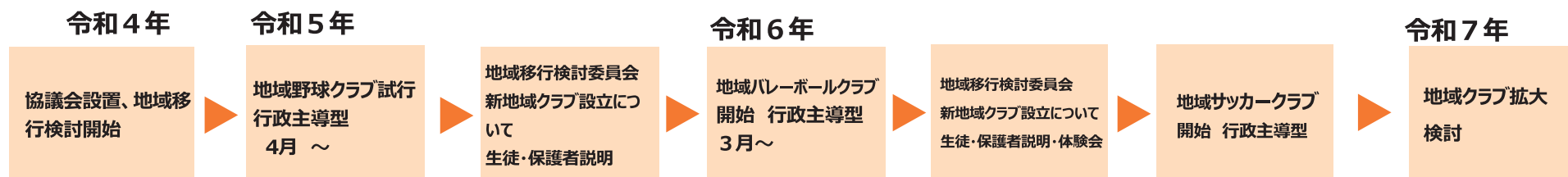
【地域サッカークラブ】



【地域総合クラブ（野球）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

市教育委員会（常陸太田市地域クラブ活動推進委員会）、
コーディネーター、学校、スポーツ協会、スポーツ団体

経過

令和4年度より検討委員会を設置し、常陸太田市地域クラブ活動推進委員会を運営団体として、行政主導型の地域クラブ活動としての活動指針を策定した。令和5年4月より団体種目の地域野球クラブをモデルクラブとして試行し、その検討を基に翌年3月から地域バレーボールを開始した。令和6年度は、地域サッカークラブを開始。運営事務局とコーディネーター、学校、指導員等で連携をとり、活動環境整備及び運営に取り組んでいる。

実施内容

令和6年度からは、市地域クラブ活動を月2回程度の休日に行うとする試験的な取組を開始した。地域クラブ活動は全3クラブが実施された。市内中学校の生徒が参加する形態であり、その競技とは異なる部活動に入部している生徒も参加可能である。また、スポーツトレーナーと連携し、ケアや怪我をしにくい体幹トレーニングも行っている。

実施にあたって生じた課題

市の現状として、生徒数の減少が影響している。地域クラブ活動を開始しても、種目により参加する生徒が少ない場合がある。生徒の要望も2極化され、学校部活動以外に休日のクラブ活動の参加まで行う生徒が少ない状況である。今後、地域クラブ活動の運営事項を検討していく必要がある。

休日のクラブ活動において、学校部活動との連携が重要である。種目により、茨城県中学校体育大会以外にも地区大会等に参加することがあり、その日程調整を踏まえた場所の確保等が必要になる。

また、種目によって指導員の不足が大きな課題として指摘されている。スポーツ少年団やスポーツ協会等へ指導員募集の案内を出すなど、行政やコーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

今後の展開

令和7年度からは、持続可能な地域クラブ運営とするために、会費負担を開始する。保護者の理解を得るために、会費負担の必要性について説明する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

年度	R4	R5	R6	R7
常陸太田市	常陸太田市部活動の運営方針改定	部活動数の適正化に向けた評価・合同部活動・拠点校部活動等による活動		
		地域移行に向けた実証事業（スポーツ庁委託事業）		
		休日の地域クラブ活動 ※先行競技 2 競技 R 6. 4 月～ 軟式野球 R 6. 10 月～ バレーボール	実証競技追加 R 7. 11 月 サッカー	実証競技追加予定(3 競技) バスケットボール、卓球 ソフトテニス
		常陸太田市地域クラブ活動推進委員会設立	人材確保が課題	
		年間を通じた検証 ・ 成果と課題の整理 ・ 環境や規則の整備 ・ 施設利用方法 ・ 指導者の確保 ・ 今後の地域展開計画 など ※ R 7 年度より、活動費の受益者負担を開始		
中学校部活動の地域移行に係る検討委員会				
茨城県	運営方針改定	休日部活動の段階的な地域移行		
		地域移行に向けた実証事業	+重点地域に係る政策課題への取組	
		人材バンク設置	委託事業支援に係る業務委託	
国	総合的ガイドライン	「学校部活動の地域クラブへの移行」改革推進期間（R 5～R 7）		
		部活動の地域移行に向けた実証事業（スポーツ庁・文化庁）		
		「地域移行」から「地域展開」へ ※学校も地域の一部として		学習指導要領解説見直し